

【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の海洋保全
3	資料名	軽石
4	内容分類	自然
5	索引語	沖縄、軽石、災害、防災、環境、保全
6	説明	<p>【軽石の被害】</p> <p>気象庁は2021年8月13日に小笠原諸島の付近の海底にある火山「福德岡ノ場」噴火したと発表（気象庁）。この噴火で生まれた大量の軽石が「黒潮反流」という西向き海流に乗って1,400キロ離れた沖縄・奄美地方に漂着して深刻な被害が出た。「福德岡ノ場」は小笠原諸島・硫黄島の南約50キロの海底火山で、噴火は2010年2月以来11年ぶりだった。</p> <p>海面を埋めた軽石が黒潮反流に乗って西に流れ、10月4日に沖縄県の北大東島と南大東島に漂着。11日に鹿児島県の奄美大島、13～14日には沖縄本島でも確認された。鹿児島県喜界町では10日に東海岸で軽石の漂着を確認。23、24日にはボランティアが一部の海岸で軽石の撤去を始めた。</p> <p>軽石による被害は、養殖用のいけすで魚がエサと間違えて軽石を摂取したことで大量死する被害や、船舶のエンジンの故障の恐れから漁業者やフェリーの運航ができない日が続く被害、リゾートホテルのビーチが一面軽石に覆われるなどの被害が連日報じられた。</p> <p>【沖縄県読谷村長浜の養殖場付近の被害】</p> <p>撮影場所は沖縄県読谷村長浜の養殖場付近で、海水面は軽石で茶色く濁り、砂浜にも軽石が堆積し、軽石が養殖の現場まで広がっている様子が見られた。</p>
7	形式	静止画(.jpg)
8	氏名	*****
9	時代・年	撮影日：2021/12/28
10	地域・場所	撮影場所：沖縄県読谷村長浜
11	利用条件	表示 4.0 国際(CC BY 4.0)
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学 沖縄サテライト校

14	協力者	特になし
15	登録日	2021/05/29
16	登録者	金城咲綾
17	ファクトデータ	circd0918-0047. jpg
18	サムネイル	
19	公開の可否	公開可
20	*特色	<p>【成分】</p> <p>今回の噴火で大量の軽石が噴出して漂流している。軽石は爆発的な噴火で噴出したマグマが、急冷されて固まったものである。地下のマグマには大量のガスが溶け込んでいるが、噴火に伴って、マグマからほとんどのガスが放出される。溶岩噴出のようにゆっくりとした噴火をすると、ガスが抜けて緻密な岩石になる。</p> <p>しかし、今回のような高い噴煙を形成する爆発的な噴火をすると、ガスが膨張しながらマグマが固結するため、空隙の多いスカスカの岩石（軽石）となる。空隙のため全体の密度は水よりも軽くなり、海面を漂流する。水がしみこんで空隙を満たすと沈降するが、空隙の形が複雑なため、長い期間漂流を続けることになる。</p> <p>JAMSTEC, コラム【福徳岡ノ場の噴火】, 一福徳岡ノ場の噴火と軽石の成分—URL:https://www.jamstec.go.jp/j/jamstec_news/fukutokuokanoba/column01/ (参照 2022 年 5 月 29 日)</p> <p>【食への被害】</p> <p>2021 年 10 月、軽石の影響で県産モズクの養殖作業が滞り、うるま市の池味漁港では養殖スギ 500 匹が死んだことが 28 日までに分かった。うるま市のモズク養殖は、例年 10 月下旬から種付けを終えた網を海中に設置する作業が始まるが、船が出港できず滞っている。2 月に収穫できるのか暗雲が立ちこめている。県産モズクは国内生産量 99%を占めており、影響は全国に</p>

		<p>広がる恐れがある。</p> <p>現在では、県内の軽石の漂着状況は少しずつ改善に向かい、漂着する軽石が次第に減っている。しかし、一見するときれいな海にも、無数の細かくなつた軽石が漂っている。海の中では軽石が浮いている状態なので、船舶の故障や養殖したモズクの不作等の被害は未だ続いている。</p> <p>また、軽石の影響をめぐっては、ひじきの名産地である与那原町と西原町で今年の出荷を断念するなど、水産業に大きな被害を与えている。</p>
21	*活用支援	
22	*利用分野	環境保全、教育、生涯学習、地域学習、生活
23	*改善結果	
24	*処理プロセス	
25	機関外リンク情報	
26	目標	
27	紹介	